苺の育苗管理について（7～8月）

R2.7　アグリ技研（株）

1.育苗状況について

7月に入り多雨、日照不足の影響により上根域となり先端も茶色で傷み、茎葉も薄く（薄葉）徒長気味です。今後は梅雨明けと同時に高温猛暑の予報ですから、天候次第では根の傷みや立枯れ（タンソ）やダニ類も予想されますので徹底した肥培管理に努めましょう。

2.一般管理について

①茎葉と根の充実　　「定植まで60日　葉の展開を良くしてクラウン部を充実させる」

⑴根張りを良くする⇒⇒「**アミクエ**」　葉面散布は、1000倍で5日間隔　ポット潅注は、500倍　（追肥のウルル5号との混用可）

⑵徒長抑制⇒⇒「**ＰＫゴー**」葉面散布の2000～3000倍を5～7日間隔

⑶葉色の充実⇒⇒「**クドグリーン**」葉面散布の500倍を7～10日間隔

②病害虫の防除　　「タンソ病・ダニ・ウドンコ～～～」

⑴静菌作用⇒⇒「**ＰＫゴー**」は亜リン酸肥料で茎葉の硬化効果と静菌効果に期待できます。

⑵ウドンコ防除時⇒⇒「**シリカ水**」1000倍の葉面散布

③育苗期の追肥　　「生育停滞苗に高窒素追肥は立枯れや根張りに影響」

⑴ポットの置肥は肥効や潅水量で判断して20～30日置きに（8月上中旬のN濃度確認）

⑵葉色や葉圧を見て、「**ウルル5号・クドグリーン・アミクエ**」での葉面散布や潅注をしましょう。

⑶定植予定の30日前（普通栽培）、低温処理は処理15日前から花芽分化誘導に「**PKゴー**」2000倍を3回葉面散布で揃えを良くしましょう。

本作も苗の充実に努め、万全な温暖化と新型コロナ対策を図り早植えを極力避けて確実な花芽分化確認後に定植しましょう。